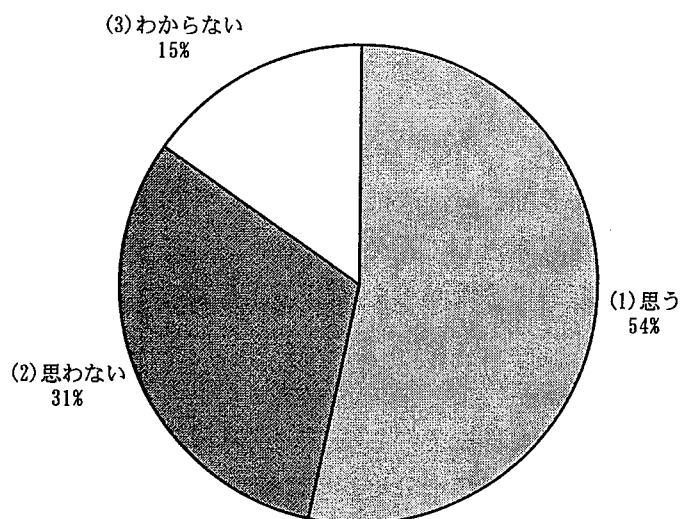


図 2-14 安全に対するより大きな公権力の必要性

厳しい警備、強い警察、監視システムの必要性 (n=176)



2-2-5. 課題

上記2-2項で示した調査結果により、社会安全に対する一般市民の意識を大まかに捉えることができた。ただし、質問において各要素の例として挙げた事象（(4)都市型犯罪的要素：従来型犯罪、セクハラ、ストーカーなど、(5)社会不安的要素：治安や政治・社会一般に対する不安、外国人問題など、(7)近隣環境的要素：隣人関係、コミュニティ問題、ゴミ投棄問題など）にみられる表現が、回答者の意識を若干誘導した感は否めない。

また、各回答における性別による分布や年齢階層による分布等の集計は今回の調査・分析では取り上げないが、それぞれの属性・階層を取り巻く環境により社会の安全に対する意識は異なるものと考えられる。これらの点に関するさらなる調査・分析は、本研究会の次年度の課題として議ることとする。

2-3. 都市の安全に関する回答の分析

前項のアンケートでは、社会の安全を脅かす要素に対する一般市民の意識を調査した。本項では、その中でも近年、多発化、多様化そして凶悪化の一途をたどる都市型犯罪の脅威に関しての一般市民の意識をさらに深く調査した。

アンケート内容は、昨年（2001年1月1日～12月31日）に発生、報道、または検挙された凶悪犯罪のうち、主要新聞（日経、読売、朝日、毎日、産経）各紙の全国版に大きく報道されたものの20件を取り上げ、これらの凶悪事件に対する一般市民の認知度、暮らしに与えた影響、社会・行政・マスコミ等のあり方についての意識調査を行った。

2-3-1. 凶悪事件の認知度

初めに2001年の凶悪事件を20件取り上げ、これを発生日順に並べたものから、知っている事件を全て選択させた。有効回答数191票のうち2002年1月～3月現在、何人が事件を認知しているかの割合(%)を事件の認知度として求め、認知度の高い順に並べ替えたものが下表である。

認知度が最も高かった事件は、大阪池田小児童殺傷事件であった。この事件は前項の調査における都市型犯罪的脅威の中で記憶に残った事件としても、最も高い得票をした事件である。犯罪史上まれに見る凶悪な事件で、被害者が幼い小学生であったことなどから、マスコミも大きく取り上げた事件であり、認知度が高いことは理解できる。次いで、世田谷一家殺人事件、中国道少女放置監禁致死事件、浅草女子短大生刺殺事件、京都メル友女子大生、OL連続殺人事件、弘前武富士強盗放火殺人事件となっており、ここまでの事件の認知度はすべて80%以上となっている。

一般的にみて、殺人事件の方が強盗事件よりも高い認知度を示しており、また殺人事件の中でも異常な殺人事件、以前の常識では考えられない殺人事件は、マスコミの報道もセンセーショナルなものとなりがちなため高い認知度を示す傾向がある。一方、殺人事件の被害者の人数の多少や、強盗事件の被害金額の多少など、被害の大小と認知度との関係は、比較的低いということがわかる。

事項では、比較的認知度の高いこれらの凶悪事件が、一般市民の生活行動にどのような影響を与えているか、このような凶悪事件に対する社会・行政・マスコミのあり方、姿勢について一般市民はどのような意見を持っているかをみていく。しかしながら、ここでいう一般市民への影響は、事件そのものの影響もさることながら、マスコミ等の報道の与える影響は、非常に大きいのではないかという仮説が成り立つ。この点については、次章の「回答にみる市民意識とマスメディアの影響」の中で検証を行う。

表2-1 凶悪事件の認知度

(10)	小学校殺傷：教室に乱入、児童8人刺殺 37歳男逮捕 大阪・池田	91%
(3)	強盗殺人：一家4人刺され死亡 東京・世田谷	87%
(13)	監禁致死：中国道少女放置 兵庫県の中学教諭を逮捕 兵庫・神戸	85%
(8)	殺人事件：女子短大生を路上で刺殺 動物の帽子をかぶった若い男逃走 東京・台東区	83%
(4)	殺人：女子大生、OL相次いで殺人 メル友の25歳男性を逮捕 京都・宇治	81%
(9)	放火強盗殺人：消費者金融「武富士」に放火・強盗 5人焼死、4人負傷 青森・弘前	80%

(11)	沖縄女性暴行：米軍曹を容疑者と断定 逮捕状請求へ 沖縄・北谷	79%
(5)	殺人：主婦刺殺事件 出会い系サイトで知り合った主婦殺人容疑で18歳少年を逮捕 茨城・牛久	69%
(15)	誘拐：小二女児連れ去り 無事保護 21歳男ら2人逮捕	56%
(1)	強盗殺人事件：運転手殺害容疑で16歳男女を逮捕 兵庫	54%
(20)	誘拐：小一男児誘拐 姉が通う学習塾塾長を逮捕 東京・板橋	54%
(6)	傷害致死：三軒茶屋駅ホームで銀行員が4人組の男に暴行 18歳少年4人を逮捕 東京・世田谷	52%
(17)	殺人：警官襲われ死亡 商店街、刃物の男も発砲で死亡 東京・世田谷	50%
(12)	殺人：女性殺害 女子短大生と判明 同じアパートの男逮捕 鹿児島	37%
(16)	連続放火：連続3件の不審火 一家4人焼死 翌日にも住宅火災2件 東京・町田市	31%
(19)	誘拐殺人：長崎女児誘拐殺人 未成年者誘拐容疑で長崎の男を逮捕 長崎・諫早	23%
(14)	子供殺傷事件：2人刺殺、1人重傷 逮捕状を請求 北海道・広尾	22%
(18)	強盗：中国エステに3人組 48万円被害 中国人5人逮捕 余罪30件以上 埼玉・さいたま市	18%
(7)	強盗殺傷：母娘が外国人ら男数人に刺殺され強盗 長女軽傷 山形・羽黒	16%
(2)	強盗：金融業者宅に10人ほどの男が侵入 2500万円奪う 埼玉・熊谷	16%

2-3-2. 凶悪事件の日常生活、行動に与えた影響と社会・行政、マスコミに対する不満・期待・改善点

本項では前項にある各凶悪事件が、一般市民の日常生活や行動に与えた影響と、社会、行政、マスコミに対する不満・期待・改善点について自由表記で集計した。初めに個々の事件に対する意見以外の凶悪犯罪全般に対する意見をまとめてみた。

まず、日常生活や行動に与えた影響としては、

- ・TVのワイドショーをより熱心に見るようになった。
- ・ワイドショー等は極力見ない。
- ・いつ誰が事件に巻き込まれるかわからないので、常に防犯意識を持つ。
- ・ピッキング対策。鍵を性能の良い物に交換した。
- ・子供が小学校に行っているのが不安。

- ・殺人事件が日常茶飯事になっているので安心して生活が出来ない。

などがあった。また社会、行政、マスコミに対する不満・期待・改善点については、

- ・未成年者の刑はわが国では軽い。
- ・被害者の自分の責任も問うべき姿勢をタブー視するのはおかしい。
- ・危険人物の把握と情報公開
- ・殺人等の遺族に対し、コメントの求め方や放送のあり方に思いやりが欲しい。
- ・被害者の人権無視しすぎ。加害者こそ社会的制裁を加えるべき。
- ・加害者、被害者の家族へのやりすぎたインタビューはよくない。
- ・遺族の生活支援
- ・警備の強化。
- ・教育を変えることが必要。

など、特に被害者の人権保護の重要性に対する意見が多く見られた。次に、それぞれの凶悪事件について、その影響や不満、期待、改善点等について細かく見てみる。

(1) 強盗殺人事件：運転手殺害容疑で16歳男女を逮捕 兵庫

まず、日常生活や行動に与えた影響としては、

- ・お金に対する事の事件が多く、心が貧しくなっているように思う。
- ・今の世の中お金がないと生きて行けない部分があると考えさせられた。
- ・ニュース番組を良く見るようになった。
- ・特に影響はない
- ・犯罪の低年齢化に危機感を覚えた。
- ・不審な若者には近寄らない

などがあった。また社会、行政、マスコミに対する不満・期待・改善点については、

- ・未成年者の犯罪においては名前も出ないが被害者のプライバシーは守られない。
- ・よく殺された方の写真はテレビで見るが、容疑者となった方の写真も出すべき。
- ・被害者の家族などの事を興味本意に書き立てる。
- ・教育（情報教育、論理的思考、科学的アプローチ）の定義強化。
- ・犯罪捜査の人員増と、質の向上、強化。司法の充実による裁判の早期化
- ・凶悪犯罪の低年齢化多発にともない、刑罰を重くする。
- ・少年法の改善を急ぐべきだ。

などがあった。

(2) 強盗：金融業者宅に10人ほどの男が侵入 2500万円奪う 埼玉・熊谷
当該事件に関するコメントは特になかった。

(3) 強盗殺人：一家4人刺され死亡 東京・世田谷

まず、日常生活や行動に与えた影響としては、

- ・1年後の今になっても犯人さえ特定されない恐怖に、人々は不安な日々を過ごす。
- ・殺人が日常生活の中でいつでも起こりうるということを実感させられた。
- ・家にいる時、道路を歩く時、常に少なからず恐怖を感じる。
- ・たとえ自分の家でも安心できるところがなくなったような不安感が強かった。
- ・ドアの鍵を増やし、戸締まりを確認するようにした。
- ・以前住んでいたところが近かったため、警戒した。
- ・家の回りでの物音などに敏感になった。
- ・家の戸締まりに注意。訪問者はのぞき穴で確認してからドアをあける。
- ・家の中においても安心出来ないという不安が生じた。
- ・家族全員が揃っている家での殺人事件で、防ぎようのない恐ろしさを感じた。
- ・事件捜査情報の収集に個別訪問された警官に指紋提供の協力要請を受けた。
- ・第三者に対する警戒心が強まった。

などがあった。また社会、行政、マスコミに対する不満・期待・改善点については、

- ・地域コミュニティ形成を防犯の視点で強化する。
- ・日本人は安心し過ぎているので、対処方を常に考えておくべき。
- ・警察などのパトロールを強化して欲しい
- ・マスコミの傲慢さが目立つ。
- ・マスコミが必要以上に報道するため、過剰反応が現れている。
- ・被害者の顔写真を公表する必要はあるのかどうか疑問。
- ・ワイドショー等で被害者を根掘り葉掘り報道するのは気の毒。
- ・時間はかかるが、やはり教育が重要だ。
- ・警察のすばやい事件解決が出来なかった事は多いに不満。
- ・未だ事件は解決していないが、早く解決の糸口を探してもらいたい
- ・マスコミに取り上げられるので捜査に協力できない人もいるのでは。
- ・捜査協力の名目で、市民の指紋を集める警察に対しての不信
- ・警察に対して、何をしているのか、という気持ち
- ・現在の行政機構（たて割）では、本質に迫る対応策は出てこないと思う。
- ・壁一つ隔てると、隣には一切無関心。もっと心暖まる交際は出来ないものか。
- ・住民はもっと捜査協力をすべき

- ・殺人犯は全員死刑にすべきだ。

などがあった。

(4) 殺人：女子大生、OL相次いで殺人 メル友の25歳男性を逮捕 京都・宇治
まず、日常生活や行動に与えた影響としては、

- ・インターネットの掲示板等は読むだけにとどめて自分からは参加しない。
- ・インターネット等、身近かな情報機器の危険性。
- ・この種の事件が増えているにも関わらず、何の手立てもない実情を感じる。
- ・メールの利用に慎重になった。
- ・メール相手への関心抑制
- ・メル友＝軽薄な関係という感じがした。
- ・メル友など、相手の見えない危険性を実感。
- ・メル友を作らない。
- ・家族に注意を促したい。
- ・携帯電話のメールアドレスを変更した。
- ・今後もサイバースペースと現実と混乱させる人が増えるだろうと思った。
- ・出会い系サイトは使用しない。
- ・青少年の事件が多発しているので我が子の様子が以前より気になるようになった。
- ・子供の交友関係が気になった。
- ・中高校生の携帯所持はどうかと思う。
- ・犯人と被害者との接点が、従来の犯罪と違うところにあるのが怖いと思った。
- ・不要メールには出ない。
- ・情報化社会について、行政、司法、マスコミも勉強不足。
- ・中高年の自信欠如が若年層に悪い影響を与えていると思う。

などがあった。また社会、行政、マスコミに対する不満・期待・改善点については、

- ・加害者より被害者のプライバシーがあからさまにされる報道はどうかと思う。
- ・出会い系サイトには写真を載せるか、プロフィールに嘘がないか、厳しく規制を。
- ・できればこのようなサイトはなくしていくべき。))
- ・インターネットの匿名性に伴う危険を社会全体がもっと考えるべきである。
- ・社会的なセキュリティーの強化が必要である。
- ・迷惑メールの防止策の開発。
- ・個人の危機管理が大切。
- ・マスコミが必要以上に報道するため、過剰反応が現れている。
- ・事件に巻き込まれるのは本人が無知だからということをマスコミが周知させる。

- ・ネットの法律を積極的に作り、厳しく対応する。

などがあった。

(5) 殺人：主婦刺殺事件 出会い系サイトで知り合った主婦殺人容疑で18歳少年を逮捕
茨城・牛久

まず、日常生活や行動に与えた影響としては、

- ・近所だったので、出歩くのがちょっと恐くなった。
- ・携帯・パソコンへの安易な心の持ち方。
- ・今後もサイバースペースと現実と混乱させる人が増えるだろう。
- ・主婦の倫理観の低下。
- ・出会いは大切なものだが、犯罪のつながるのは嫌。
- ・出会い系サイトを利用する若者が増え、多くの事件が起こっている。
- ・出会い系サイトやメル友など、インターネットを通じた交友関係での危険性。
- ・情報の反乱によって、若者が次々と凶悪犯罪の加害者になっている。
- ・他人に対する警戒心の増大。
- ・出会い系サイトでのメル友の信用性に疑いを持つ。

などがあった。また社会、行政、マスコミに対する不満・期待・改善点については、

- ・自分自身を持って行動する。
- ・出会い系サイトの調査・注意勧告。
- ・個人個人でもっと警戒するようにした方がいいと思う。
- ・教育の仕方を改めて考えるべき。
- ・メル友は利用者を制限するシステムを整えるべき。
- ・インターネット上での犯罪をなくすための法律を強化すべきではないか。
- ・幼児、青年期の道德教育を重視した教育の実施。
- ・出会い系サイトはなくすべき。
- ・出会い系サイトの悪質性をもっと報道すべき。

などがあった。

(6) 傷害致死：三軒茶屋駅ホームで銀行員が4人組の男に暴行 18歳少年4人を逮捕
東京・世田谷

まず、日常生活や行動に与えた影響としては、

- ・凶悪事件とら起きそうにない田園都市線で起きたので怖いと思った。

- ・家にいる時、道路を歩く時、常に少なからず恐怖を感じる。
- ・他人への関心を不要とせざるをえない現実を感じる。
- ・トラブルに巻き込まれないように注意するようになった。
- ・むやみに注意などしない方がよいかもしれないと思ってしまった。
- ・若者達の「きれる」という恐さで大人達が注意したりできない。
- ・電車内でマナーの悪い人間を注意する事が少なくなった。
- ・電車内で周辺の乗客に注意を払う。
- ・電車内で他人には干渉しないようになった。
- ・路上、電車内などで、自分のとるべき正しい行動を迷う。
- ・飲酒後の帰宅の注意。
- ・公共交通機関でのトラブルが気になるようになった。
- ・車両を選ぶ時がある。
- ・若い、人相が悪い人と目を合わさないように街中を歩くようになった。
- ・若い子が恐ろしいと思う。
- ・通りすがりの少年達にも警戒してしまう。
- ・集団でいる若年層への対応。少年がいる場所は避けるようになった。
- ・ひとまとめにしてはいけないと思いながらも少年達への嫌悪感がある。
- ・日頃利用している線なので気になった。
- ・電車で頭にくることがあっても、我慢するようになった。
- ・電車に乗る時、ホームの端の方にいないようにする。

などがあった。また社会、行政、マスコミに対する不満・期待・改善点については、

- ・少年の人権に対する過剰な配慮をしすぎ。
- ・少年処罰の強化
- ・未成年に対する罪や罰を重くして欲しい。
- ・警備、監視体制の充実
- ・夜の警備が少ない。
- ・官民間わず警備の強化
- ・公共の場での迷惑行為を厳しく取り締まるようにしてほしい。
- ・電車内に非常ベルがあるとよい
- ・家庭だけの問題でなく、社会的問題として青少年への対応を考える。
- ・家庭でのしつけも重要だが、学校教育の道徳も重要。
- ・鉄道警察官の配置が急務。
- ・電車内及びホームでの警備・見回りなどの強化
- ・通勤電車の混雑を解消する。そのためには首都移転も良い方法だ。

などがあった。